

二町内の自治会新聞

二町内自治会二十年の歩み⑥

コミュニティ助成事業

二十年前自治会長となつて考えたことは、町内唯一の集会所である老人憩の家の充実を図ることだと思つた。

一、古いエアコン(中古のエヤコンで雑音がひどかった。老壮会からも取り換への要望があつていた

二、集会は、畳二十一畳の部屋で長机に座布団を引いて行われていた。(足腰が悪くて座れない人もいた。)高机に椅子が必要であつた。

三、広報活動では、印刷機が必要であつた。

これらを見積もると百万円を超え、町内の予算では、どうにもならなかつたこのような時宝くじの益金を財源としたコミュニティ助成事業があることを知つた。

上限二百万円の助成が

受けられるのである。

早速市役所に行つて、手続きの方法を尋ねることにした。

何しろ金額が高いので書類のハードルも高かつたことを覚えています。

書類の申請がパスして二百万円相当の買い物が始まつた。

エヤコン、高机と椅子、印刷機等が次々と購入されていった。

エヤコンは、音がなく涼しい風を送つてくれた。

高机にパイプ椅子は、大変評判は良かったが高機10脚、パイプ椅子40脚が入ると部屋が狭く感じた。次の段階として部屋を広げることが喫緊の課題となつた。

自主防災クラブ

阪神淡路大震災後地域による防災組織の必要性が叫ばれるようになった

事務局
村上徹郎
TEL 368-5384
住所 健軍本町 26-3

市からの要請もあつて、早速二町内の自主防災クラブを結成することにした。

先ず取り組んだことは、災害時の避難訓練だつた。訓練を通して、防災意識を高めることが狙いであつた。

次に独居老人等を対象とした災害時要援護者の避難訓練へと高めていった。

温かい町づくりを目指すなら災害時弱者を出さないシステムが必要であつた。

災害時要援護者を中心とした避難訓練を実施することにした。

このような訓練を通す中でいろいろと必要な備品があることを知つた。

携帯無線、救急薬品、防災ヘルメット、リヤカー、発電機等が挙げられる。

これらもコミュニティ助成事業で百万円上限の助成があること

知つた。申請書を出して百万円の助成を受けることにした。

携帯無線、救急薬品、ヘルメット、リヤカー、発電機などを購入することが出来た。

コミュニティ助成事業の陰で集会所としての公民館の機能と充実、また自主防災クラブの機能も高めることが出来ました。身の引き締まる思いをいたしました。

故安永照子さんの御芳志

熊本地震までは、ラジオ体操クラブや子どもを守る会等積極的に頑張つて頂きました。またたけみやサロンやカラオケ喫茶では、ジョークを飛ばして、会の人気者でした。熊本地震で自宅が全壊に近い被害を受けられました。

当時安永さんは、九十歳で家を建て直すには酷な話でした。

慣れ親しんだ町内を離れるのは、辛かつたと思ひますが老人施設「わらび園」に入園されることになりました。

安永さんは、天涯孤独

でしたが民生委員の松永さん、澤田さんが親身になつて世話をしてくれましたのであまり不自由な思ひはなかつたと思います。自治会からは名誉市民の称号を与え、自治会行事には、招待状を送り参加して頂くようにして頂きました。祭りや敬老会にも参加して頂きました。

わらび園の生活も楽しく充実していたようでした。

今年になって体調の不良を訴えられ西日本病院に入院されました。診察の結果は、末期のすい臓癌でした。

本人も先行きのことを考えられ、今まで世話になつた団体へ寄贈することを考えられました。

自治会へ三十万円
老壮会へ十万円
子どもを守る会へ十万円
社会福祉協議会へ十万円
健軍校区子どもを守る会へ三十万円

御芳志を有り難く戴くことに致しました。

その後安永さんは、三月三十日お亡くなりになりました。

五月十二日各種団体の

代表が熊本市の共同墓地に赴き、献花しお参りをしました。

六月の公園清掃

六月六日(日)六時三十分より公園清掃を行います。この日は、町内一斉清掃でしたがコロナウイルスの蔓延防止になつており、市の行事は取りやめとなりました。

掃除内容は、雑草の草刈り、後片付け。花壇の草取りが予定されております。

八丁馬場の剪定作業

六月十三日(日)午前八時より開始します。今回は、参加者全員に弁当を出すようにしています。

参加者は、自治会長まで意思表示をお願いしておきます。

公園花壇の花植え

七月四日(日)六時半より中学生と老社会の花壇の花植えを行います。

始まるまえに中学生代表と老社会長のエールの交換を行います。

作業終了後、パンとジュース朝食が出ます。